

熊本大学環境報告書

eco act 2016

えこあくと

Environmental Report
2015年〈平成27年〉度版

11年目のえこあくとで見る
エコ・キャンパスに向けた
「歩み方」



熊本大学
Kumamoto University

創造する森 挑戦する炎

井上雄彦 記す



熊本大学
Kumamoto University

木々が連携し共生する森のごとく、熱い志を持ち高め合う炎のごとく。世界を豊かにする研究・教育に取り組む。

■ 黒髪キャンパス

文学部・教育学部・法学部・理学部・工学部

■ 本荘・九品寺キャンパス

医学部(医学科・保健学科)

■ 大江キャンパス

薬学部

「創造する森 挑戦する炎」には、本学が熊本の地で長年培ってきた次の3つの特質をわかりやすく伝えたい、そして今後も守り育てていきたいという想いが込められています。揮毫は、かつて本学に在籍された漫画家・井上雄彦氏にお願いしました。

- 地域に身近で世界とつながる、機動力あふれる総合大学
- 実践的課題解決力を持ち粘り強く取り組む、パワーリーダーの育成と輩出
- 歴史や環境を活かして社会が求めるイノベーションを創出する、知的専門家集団

“熊本ならではの”の 特色ある研究を通じて 社会に貢献します



まず熊本地震に関して、甚大な被害によって犠牲になられた方々に謹んで哀悼の意を表しますとともに、被災された方々に心からのお見舞いを申し上げます。また、各方面からのご支援及びご心配や温かい励ましのお言葉に対しまして、心から感謝申し上げます。熊本大学は、世界を目指す研究拠点大学、地域から世界へつなぐグローバル化を牽引する大学、産学連携を通じて熊本における地方創生を推進させる大学という主な役割を担っています。まずは、その役割を担う体制を早急に戻すことが求められます。昨年は台風による被害を受け、今年は熊本地震で被災しました。しかし、熊本地震の前よりも活力のある大学として飛躍するため、さらに、今まで共に成長し支えられてきた熊本の地を復興させるために、構成員が丸一となって熊本大学の早期復興に取り組んでまいります。その一環として、研究者らが提案したプロジェクトを組織化して、地域や自治体のニーズに応える「熊本大学復興支援プロジェクト」を立ち上げました。地震に関連した新しい研究分野の活性化も目指しています。

さて、2015年度の熊本大学の環境に配慮した活動をまとめた熊本大学環境報告書「えこあくと2016」を公表いたします。昨年公表しました「えこあくと2015」においてデザインを一新しましたが、今回も同様の構成で編集しており、読者の皆様に読みやすいように絵や図を大きく配置しています。熊本大学では“熊本ならではの”の特色ある環境に関する研究が展開されています。マグネシウム、化学、省エネルギーをはじめとして、沿岸域、地下水研究、パルスパワーの領域で、環境に優しい学問の発展や技術開発、社会システムの構築を行っています。昨年は学生による研究者へのインタビューを行いました。今年は熊大本

学の職員によるインタビューを行いました。学生とは違った視点で研究内容を聞き出しているの、是非ご覧ください。

熊本大学は、「環境理念」と「環境方針」に従って、施設・環境委員会と環境安全センターが連携して、エコ・キャンパスの実現を目指して構成員一同で環境に配慮する活動を行ってきました。エネルギー投入量は、延床面積原単位で昨年度比約3.6%削減しました。これで5年連続エネルギー投入量(原単位)の削減を行うことができました。可燃物排出量(事業系一般廃棄物)も昨年度比で約6.1%削減しました。これは2006年度から2015年度まで、10年連続で可燃物排出量を削減し続けたことになります。学生による環境に配慮した活動も行われています。学生たちの自主性による活動を応援しますし、支援したいと思います。これらの活動だけでも、熊本大学はエコ・キャンパスに向かって着実に活動していることが分かります。本学構成員のたゆまぬ努力とエコ・マインドの高さによるものです。あらためて感謝いたします。

熊本大学は、「創造する森 挑戦する炎」というコミュニケーションワードを掲げて邁進しています。「えこあくと2016」からも読み取れるように、このコミュニケーションワードにふさわしい環境に配慮した活動ができる人材(人財)が育っています。さらに本学から一人でも多くの「エコ・マインド」を持った人材(人財)が輩出できるように、先を見据えて前へ進み続けたいと思います。今後ともよろしくご支援、ご協力のほどお願いいたします。

2016年9月

国立大学法人熊本大学
学長

原田 信志



エコ・キャンパスに向けた歩み方



002

トップメッセージ

003

CONTENTS

目次と2016年度の概要をご紹介します

学生の視点

熊本大学の環境に配慮した活動を学生の視点でご紹介

007

01 通学

009

02 講義室

011

03 休憩時間

012

04 食堂・売店

013

05 ゼミ室・研究室

015

活動コラム File.01

016

低炭素スタイル

低炭素社会に向けての活動についてご紹介

017

研究01 KUMADAIマグネシウム合金の
国際研究教育拠点

インタビュー = 金 鍾鉉 特任准教授

部 局 先進マグネシウム国際研究センター

019

研究02 創エネルギー物質化学(EnMach)

インタビュー = 國武 雅司 教授

021

研究03 エコ・エネ研究会

インタビュー = 溝上 章志 教授

023

取組01 エネルギーを作る

工夫してエネルギーを作っています

025

取組02 ハード面の整備

計画的に省エネルギーを図っています

027

取組03 ソフト面の活動

協力し合って省エネルギーを図っています

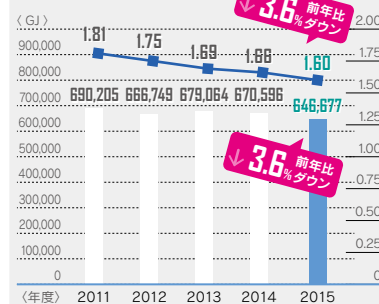
029

活動コラム File.02

エネルギー
投入量(原単位)は
5年連続で
削減していますエネルギー投入量は約3.6%
(原単位3.6%)
削減することができました。

エネルギー投入量

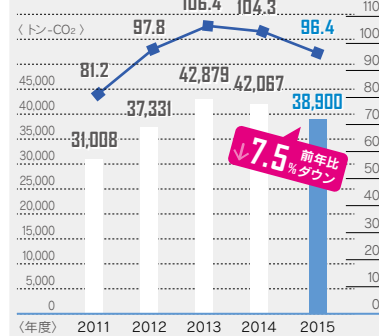
●過去5年におけるエネルギー投入量の推移

(延床面積原単位(GJ/m²))温室効果ガスは約7.5%
削減することができました。

温室効果ガス

●過去5年における温室効果ガス(CO₂)

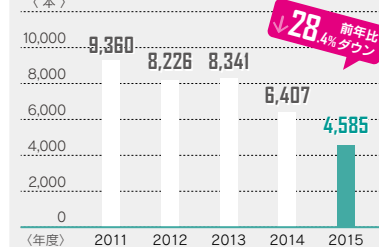
排出量の推移

(延床面積原単位(kg-CO₂/m²))照明器具類購入量は約28.4%
削減することができました。

照明器具類購入量

●過去5年における照明器具購入量の推移

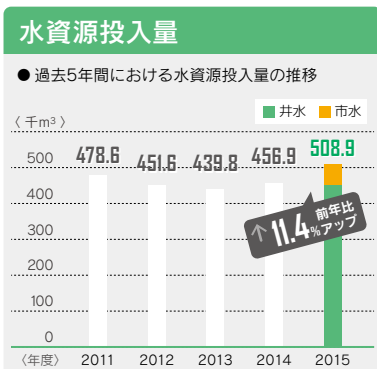
(本)



熊本大学 11年目の「エコあく」とで見る

水資源投入量は約11.4%

増加しました。



熊本大学環境報告書

編集方針

国立大学法人熊本大学は、2006年（平成18年）から、本学が行っている環境負荷低減を目指した環境配慮活動を環境報告書「エコあく」とにまとめて公表しています。「エコあくと（eco-act）」は、崎元 元学長が親しみやすい、読みやすい書名として付けました。今後も、高校生・大学生を含めた読者の方々とのコミュニケーションツールとして十分な機能を果たせるよう、さらに読みやすく、充実した「エコあくと」を目指します。報告事項の特定と編集設計は、環境省の「環境報告ガイドライン（2012年版）」とGRI(Global Reporting Initiative)の「サステナビリティ・レポーティング・ガイドラインG4」を参考にしています。

自然共生スタイル

自然共生社会に向けての活動についてご紹介

030

031

研究01 生物多様性のある八代海沿岸域の俯瞰型再生研究プロジェクト

インタビュー = 中田 晴彦 准教授

033

研究02 地下水循環を踏まえた地下水持続利用システムの構築

インタビュー = 一柳 錦平 准教授

035

研究03 閉鎖性海域における豊かな自然環境・社会環境創生のための先端科学研究・教育の拠点形成

インタビュー = 田中 尚人 准教授

037

研究04 地下水資源の持続戦略的利用を実現する流域圏ランドデザイン研究

インタビュー = 濱 武英 准教授

039

研究05 メソ領域科学研究拠点

インタビュー = 大平 慎一 准教授

041

取組01 緑 化

キャンパス整備の一環で、緑地の維持管理を行っています

043

取組02 キャンパス美化／生物多様性／節水

持続的資源を保ち、さらにキャンパス美化を行います

045

取組03 化学物質の管理

化学物質管理の徹底を図っています

047

部 局 沿岸域環境科学教育研究センター 合津マリンステーション

049

部 局 薬用資源エコフロンティアセンター 薬草パーク構想

051

活動コラム File.03

豊かな緑と水資源に囲まれた熊本にある大学として、
「エコ・キャンパス」の実現、持続的な環境保全活動、
環境改善などを推進しています。

052

循環型スタイル

循環型社会に向けての活動についてご紹介

053

研究01 パルスパワー科学研究所

インタビュー = 王 斗艶 准教授

部 局 パルスパワー科学研究所

055

取組01 廃棄物対策

“分別の徹底”と“廃棄物排出量の定量”を行います

057

部 局 環境安全センター

学生の取り組み

熊大生が主体となって行っている活動や取り組みをご紹介します

058

01 紫熊祭実行委員会の活動

059

02 リクラブ

060

03 熊大ソーラーカープロジェクト活動報告

環境教育

全学的にまたは部局で行われている環境教育をご紹介します

061

01 教養教育「ベーシック」

062

02 環境ISOの取得

062

03 みなまた環境塾

熊本大学の研究・教育人

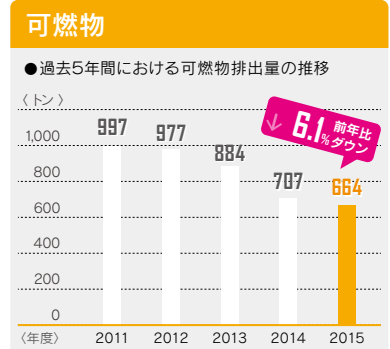
環境に関する取り組みを行っている教職員の一部をご紹介します

063

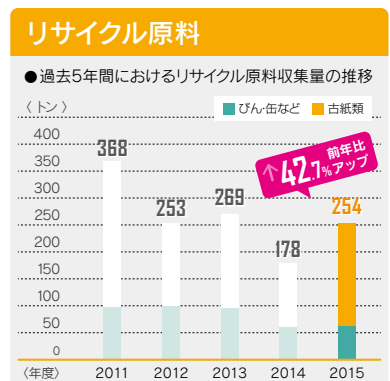
教員紹介 教育学部／法学部／理学部／工学部／
大学院法曹養成研究科／
沿岸域環境科学教育研究センター／
環境安全センター

可燃物排出量は
10年連続で
削減しています

可燃物排出量を約**6.1%**
削減することができました。



リサイクル原料収集量は約**42.7%**
増加しました。





表紙写真／黒髪北地区の桜並木で並ぶ、
大学院先導機構URA推進室及び社会連携課
研究コーディネーター(URA)の職員たち



熊本大学環境報告書 えこあくと2016

編集STAFF *はメイン担当者です。

編集者

山口佳宏* (環境安全センター)
満田昌昭 (運営基盤管理部)
内村玲史* (運営基盤管理部)
庭木尚美 (運営基盤管理部)

デザイン

鎌崎廣江* (有限会社ソフトシンク)
米田良好 (有限会社ソフトシンク)

本誌に記載されている記事、写真等の無断掲載、複写、転載を禁じます。

Information

環境報告書データ一覧

基本情報

- 070 組織図／構成員数／財政
- 071 各地区の位置／延床面積

環境マネジメント

- 073 イメージ図／環境理念／環境方針
- 074 体制／規制の遵守状況
- 075 環境保全活動の沿革

環境コミュニケーション

- 076 環境報告書「えこあくと」／
熊本大学ホームページ／熊大歌留多と熊大辞典

2015年度環境マネジメント

- 077 まとめ

環境負荷データ(低炭素スタイル)

- 079 エネルギー／温室効果ガス

環境負荷データ(循環型スタイル)

- 083 廃棄物／グリーン購入

マテリアルバランス／環境保全コスト

環境負荷データ(自然共生スタイル)

- 086 水資源／化学物質管理

社会的取組

- 089 安全衛生／喫煙対策
- 男女共同参画／ハラスメント防止

記載事項の対照表

- 091 環境報告ガイドライン(2012年版)
- 092 GRI G4

第三者意見

編集後記

093

094